

2019

JA長崎県青協  
ポリシーブック

[若手農業者が長期的営農ビジョンを描くために]



長崎県農協青年部協議会

# 2019 J A長崎県青協 ポリシーブック

## 目 次

- J A青年組織綱領
  
- 「ポリシーブック」の位置付け
  - I. 青年部活動の活性化
  
  - II. 農業を取り巻く環境への対応
  
  - III. 自然災害等から地域農業を守るために

# J A 青年組織綱領

我々 JA 青年組織は、日本農業の担い手として JA をよりどころに地域農業の振興を図り、JA 運動の先駆者として実践する自主的な組織である。

さらに、世界的視野から時代を的確に捉え、誇り高き青年の情熱と協同の力をもって、国民と豊かな食と環境の共有をめざすものである。

このため、JA 青年組織の責務として、社会的・政治的自覚を高め、全国盟友の英知と行動力を結集し、次のことに取り組む。

一、われらは、農業を通じて環境・文化・教育の活動を行い、地域社会に貢献する。

J A 青年組織は、農業の担い手として地域農業の振興を図るとともに、農業を通じて地域社会において環境・文化・教育の活動を行い、地域に根ざした社会貢献に取り組む。

一、われらは、国民との相互理解を図り、食と農の価値を高める責任ある政策提言を行う。

人間の「いのちと暮らし」の源である食と農の持つ価値を高め、実効性のある運動の展開を通じて、農業者の視点と生活者の視点を合わせ持った責任ある政策提言を行う。

一、われらは、自らが JA の事業運営に積極的に参画し、JA 運動の先頭に立つ。

時代を捉え、将来を見据えた J A の発展のため、自らの組織である J A の事業運営に主体的に参加するとともに、青年農業者の立場から常に新しい J A 運動を探求し、実践する。

一、われらは、多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高める。

J A 青年組織のネットワークを通じて営農技術の向上を進めるとともに、仲間との交流によって自らの新たな可能性を発見する場をつくり、相互研鑽を図る。

一、われらは、組織活動の実践により盟友の結束力を高め、あすの担い手を育成する。

J A 青年組織の活動に参加することによって、個人では得られない達成感や感動を多くの盟友が実感できる機会をつくり、このような価値を次代に継承する人材を育成する。

(注釈)本綱領は、JA 全青協設立の経過を踏まえて「鬼怒川5原則」「全国青年統一綱領」の理念を受け継ぎ、創立 50 周年を契機に現代的な表現に改めるとともに、今後目指すべき JA 青年組織の方向性を新たに盛り込んだものである(平成 17 年 3 月 10 日制定)。

# 「ポリシーブック」の位置付け

## ～青年部の政策提言集～

J A長崎県青協においては、平成23年度より「ポリシーブック」の作成を行っております。ポリシーブックを一言で表現すると「青年部の政策提言集」となりますが、作成にあたりJ A青年部盟友一人ひとりが営農や地域活動を担っていくうえで抱えている課題や疑問点について、盟友同志で解決策を検討して取りまとめる手法が特徴です。

内容については、本県J A青年部盟友が議論したものを基本にしなが、J A長崎県青協で研究・検討し作成する手法を採用しております。

作成したポリシーブックは、単に政策を要請することだけではなく、まずは個人・青年部で解決に向け尽力し、取り組むことを明記しております。

農業・農協改革が叫ばれる今日、これからの地域農業を担う我々が、自ら行動し、将来の農業・農協を創造していくための行動指針として、ポリシーブックを活用していきます。

## I. 青年部活動の活性化

青年部活動の活性化に向け、以下の課題に取り組む。

### 課題

- J A 青年部盟友の減少や兼業農家増加により、青年部盟友の結集力が低下し、青年部活動に対する意識の希薄化を招いている。
- J A 青年部活動の目的共有や外部への魅力をアピールできていないため、青年部活動に参加しない盟友が多い。
- 地域に密着した J A 青年部活動を行いたいが、費用が多額となり、限られた活動しかできていないため、活動予算を確保したい。

### 解決策

#### ①個人・J A 青（壮）年部としての取り組み

- ◇ 従来の大変さを伝える食農教育から機械（A I : 人工知能等）を使った最新農業の楽しさを伝える。（食育活動のモデルチェンジ）
- ◇ ポリシーブックなどを活用し、目的の共有化を図る勉強会を積極的に開催する。
- ◇ 青年部で協力し、高齢農家などの農業アルバイト(委託)を行い、活動予算を捻出する。

#### ②J A と一体となった取り組み

- ◇ J A 役職員と意見交換を行い、子ども達（将来の農業者）に向けて、農業の魅力を伝える訪問授業などを行う。
- ◇ J A 広報誌やSNSなどを活用し、外部に向けて青年部活動の情報を発信する。
- ◇ 資材の配達や牛の除格などを J A 青年部と協力して行う。

#### ③行政に提案・要望すること

- ◇ 後継者対策など、若手農業者の増加に繋がる政策を要望する。
- ◇ 県・市などの広報誌に J A 青年部活動の情報掲載を提案する。
- ◇ 補助金などを活用した事業の提案を要望する。

## II. 農業を取り巻く環境への対応

農業を取り巻く環境への対応を行うために、以下の課題に取り組む。

### 課題

- 人口減少・少子高齢化による後継者不足の影響により、農業人口が減少し、地域内で募集をかけても人材が確保できない。
- 儲かる農業を確立していくために、県内での共販品目を集約する。
- 生産資材（肥料・農薬など）などの経費が年々増大し、農業経営を守るため、価格に転嫁したいが十分にできていない。

### 解決策

#### ①個人・J A青（壮）年部としての取り組み

- ◇ 地域内でJ A共販作物を扱っている場合は、J A青年部盟友と協力のうえ、労働を分配する。
- ◇ 中長期的な視点で明確なビジョンを設定し、収益性の高い農作物導入に取り組む。
- ◇ 積極的にJ Aへ出荷し、ブランド化を図ることで、J Aの販売力を強化する。

#### ②J Aと一体となった取り組み

- ◇ 外国人労働者などの人材派遣を介して、労働力を確保する。
- ◇ 高品質な農作物を買い手に高く買ってもらうような販売戦略を確立する。
- ◇ J A役職員との意見交換を通じて、J A青年部の声を農協運営に反映させる。

#### ③行政に提案・要望すること

- ◇ 人材確保の観点から、外国人労働者を正職員として雇用できるよう、労働力の多様化に対応した制度の拡充を要請する。
- ◇ ブランド力強化と産地確立に向け、コスト低減に向けた技術開発を要望する。
- ◇ 後継者対策など若手農家の増加に繋がる政策をJ Aと共に要望する。

### Ⅲ. 自然災害等から地域農業を守るために

自然災害等から地域農業を守るために、以下の課題に取り組む。

#### 課 題

- 鳥獣被害が深刻化しており、農業経営を圧迫している。
- 局地的な豪雨などの自然災害が頻発し、農産物を安定供給するための生産基盤が脅かされている。

#### 解決策

##### ①個人・J A青（壮）年部としての取り組み

- ◇ 狩猟免許をJ A青年部盟友が取得し、青年部員で鳥獣を捕獲する。
- ◇ 自然災害による被害状況を学び、ハウスなどの施設強化などの事前対策を講じる。

##### ②J Aと一体となった取り組み

- ◇ 農業所得の維持に寄与する取組みとして、狩猟後の加工支援（施設・技術）を要望する。
- ◇ 被害が発生した際は、緊急災害資金等の迅速な資金対応。

##### ③行政に提案・要望すること

- ◇ 狩猟免許取得にかかる費用助成を要望する。
- ◇ 農業に関連するインフラの速やかな整備、被害に遭った際の災害基金制度の創設などを要望する。

以 上